

- 名称: 国際花と緑の博覧会
- 略称: 花の万博、EXPO'90
- 理念: 自然と人間との共生
- 会期: 1990年4月1日～9月30日  
(183日間)
- 場所: 大阪・鶴見緑地
- 会場面積: 約140ha  
(駐車場関連施設含む)
- 入場者総数: 23,126,934人  
1日最多入場者数/370,752人(9月23日)  
場内最大観客数/224,928人(9月23日 13:48)  
夜間入場者総数/4,348,499人
- 参加国数、国際機関数:  
**83カ国**(日本含む)、**55国際機関**
- 経済波及効果: **2兆6991億円**
- 会場内の植物の植え付け、展示総数:  
協会花壇 延べ**3,600,000株**  
**1,500種**(品種含む)
- 海外報道来訪者総数:  
**59カ国 330社 1,200人**



▲花の谷

街のエリア▼



花博記念協会のピンクのマークは、EXPO'90のシンボルマークをデザイナーの勝井三雄氏がリメイクしたものです。



We Love The Earthのマークは花の万博閉会式のメッセージとして使用されたもので、30年の時を経て、再利用しました。

公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪府大阪市鶴見区緑地公園 2-136  
TEL:06-6915-4500 FAX:06-6915-4524



# 国際花と緑の博覧会 30周年記念 メモリアル展 ガイド



花の万博  
マスコットキャラクター  
「花ずきんちゃん」

2020年(令和2年)

11/17 TUE 火  
12/13 SUN 日

花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館 展示室

## ごあいさつ

1990年、ここ鶴見緑地にて開催された「国際花と緑の博覧会(花の万博)」は人間が自然を尊び、調和を図りながら生きる「自然と人間との共生」を理念として開催されました。

当時は、地域の公害、地球規模の森林破壊・酸性雨などが耳目を集め、人々が青い宇宙船「地球号」の行く先に関心を持ちはじめた頃でした。そのような時流の中で、理念を具現化した起伏豊かな緑の会場に2,312万人もの入場者を迎えたことは、多くの人々が言葉なき花や緑に心を寄せた結果ではないでしょうか。

花の万博から30年が経過した現在、「自然と人間との共生」に基づくレガシーは、自然科学に多大な貢献を行った研究者を顕彰するコスモス国際賞といった事業を始め、市民の憩いの場となっている鶴見緑地や当時の植物を擁する咲くやこの花館など綿々と受け継がれています。

災害の甚大化、新型コロナウイルス感染症の流行など、人間と自然の関わりが改めて問われるいま、本メモリアル展により、花の万博の開催の意義と、その理念である「自然と人間との共生」の重要性を改めて知るきっかけになると共に、博覧会閉幕後30年間にわたり継続してまいりました各理念継承事業へのご理解、そして2025年大阪・関西万博、2027年横浜国際園芸博覧会へのエールとなれば幸いです。

2020年11月17日  
公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会



# メモリアル展 ご案内

## 花ずきんちゃん

全国公募により採用された「花ずきんちゃん」。立体モデルへのリライトは故手塚治虫さんが手がけられ、その石膏モデルは、このメモリアル展が初公開です。「花ずきんちゃん」が宇宙から花の万博を見にきた「パパグリーン」の案内役というVTRが作られたことは、あまり知られていません。



183日間の国際花と緑の博覧会には多くのエピソードがあります。

30周年記念メモリアル展では、その一部しかご紹介できないので、この紙面でさらにスポットをあてたいと思います。花の万博は、それまでの博覧会で見られた先進国のパビリオン群が乱立する会場ではなく、発展途上の多くの国の自然や文化、そして身近な環境問題も展示されました。花や緑が象徴する自然の命の尊さを提示した博覧会は「地球生命の祭典」と称され、2,300万人余の人々が「自然と人間との共生」というテーマのもとに集ったのです。

## 皇室・皇族のご来場

名誉総裁を務められた皇太子殿下は、会期前と会期中合わせて4回ご行啓になられ、皇室外交として、天皇皇后両陛下、皇太子殿下が、全ての海外庭園を回られました。また、現在も続いている「全国みどりの愛護の集い」は、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、第1回大会がメインホールで開催されました。



皇室・皇族のご来場  
(写真パネル)

コンパニオン  
ユニフォーム

## コンパニオンユニフォーム

会場で様々なケアにあたったEXPOコンパニオン、そのユニフォームは全世界からの公募により約1,900点が集まりました。審査会を通過したのは、日本の服飾専門学校生の19歳の生徒さんがデザインした大柄の白い花びらを紺地にあしらった和の要素もある作品でした。



## 写真パネル

花の万博に参加した国々は後進国が多く、協会が輸送費の負担を行ったり、民間企業がスポンサーとしてバックアップしました。



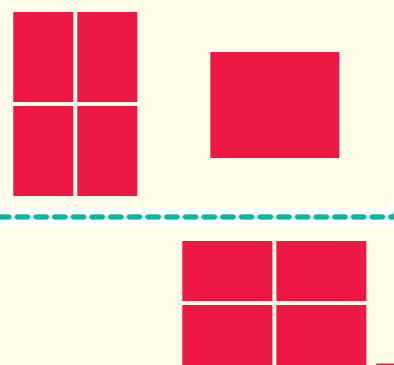
## 花の万博 公式ポスター

公式ポスターは第1号から第5号まで5種、10枚製作されました。公式ポスター第1号が緑の草原であるのに、第3号は会場イラストに変化しているのは、会場建設が進んでいる証です。

なお、公式ポスター以外では、シンボルマークや「花ずきんちゃん」の制定、前売り入場券の販売促進などのポスターも製作され、中でも有名画家らにより5枚組リトグラフのポスターは500組の限定版です。



花の万博  
パビリオンの模型・グッズ展示



花の万博公式ポスター

## 写真パネル

花の万博は、庭園や花などの各部門に分かれたコンテストが開催されました。つくば万博に比べ協会設立は1年遅いという厳しい船出の中、植物管理やコンテストなどの新部門も設置し、つくば万博比で1割以上少ない協会職員で運営にあたりました。



## 写真パネル

1990年の夏は、明治15年(1882年)の大阪管区気象台開設以来、当時史上2番目の暑さ38.3度を記録し、アスファルトで覆われた街のエリアは、50度以上の酷暑。氷柱や水辺の設置、霧散布やスノーマシン等の導入で、協会の対策費は3億円以上でした。そのおかげもあって、夏の約1か月の日射病(熱中症)の発生は171人で、千里万博890人、つくば万博235人を大きく下回りました。



## 写真パネル

日本の風土の基本的空間構造として、山、野原、街の3エリアに分けたゾーニングは、総合プロデューサー磯崎新さんの計画によるものです。起伏のある緑豊かな「太陽の丘」付近は花や緑の愛好者、平坦な街のエリアは若者が、それぞれ楽しむ場所として賑わいました。

